

八重山保健所管内における海洋危険生物被害の概要

八重山保健所 生活環境班

I 被害報告件数の状況

1. 年別被害報告件数(2008年～2017年)

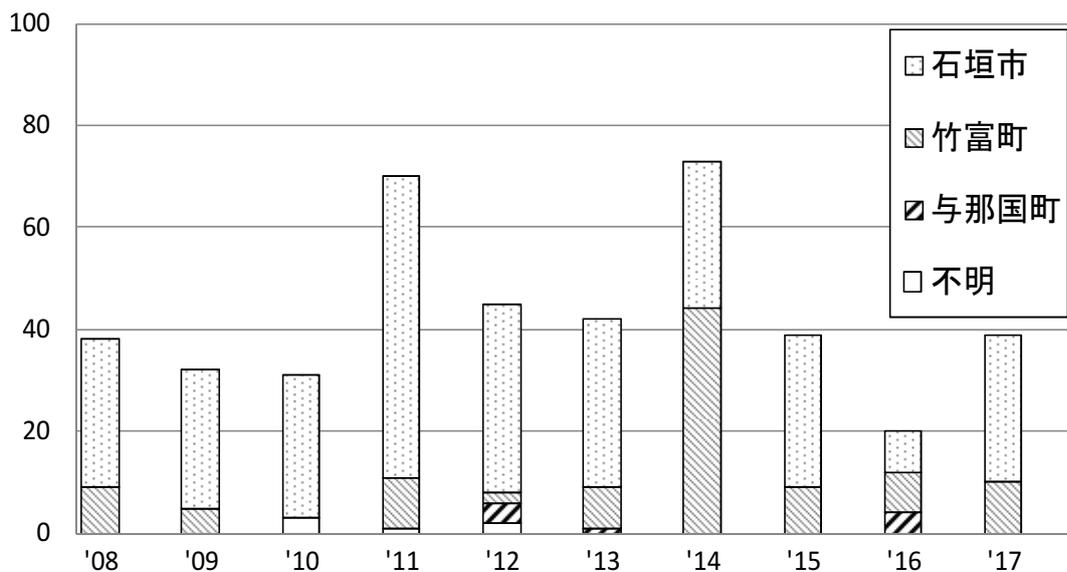
2008年～2017年の被害報告件数について表1に示す。

八重山管内の被害報告件数については、年により変動はあるが年平均42.9件(石垣市30.9件、竹富町10.5件、与那国町0.9件)となっており、16年の20件から17年は39件と増加している。

市町別にみると、石垣市が72.0%を占め、竹富町24.5%、与那国町2.1%、不明1.4%となっている。

表1. 年別被害報告件数

市町名	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	計	年平均
石垣市	29	27	28	59	37	33	29	30	8	29	309	30.9
竹富町	9	5	0	10	2	8	44	9	8	10	105	10.5
与那国町	0	0	0	0	4	1	0	0	4	0	9	0.9
不明	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0	6	0.6
計	38	32	31	70	45	42	73	39	20	39	429	42.9



2. 加害生物別被害報告件数 (2008年～2017年)

加害生物別の被害報告件数を表2に示す。

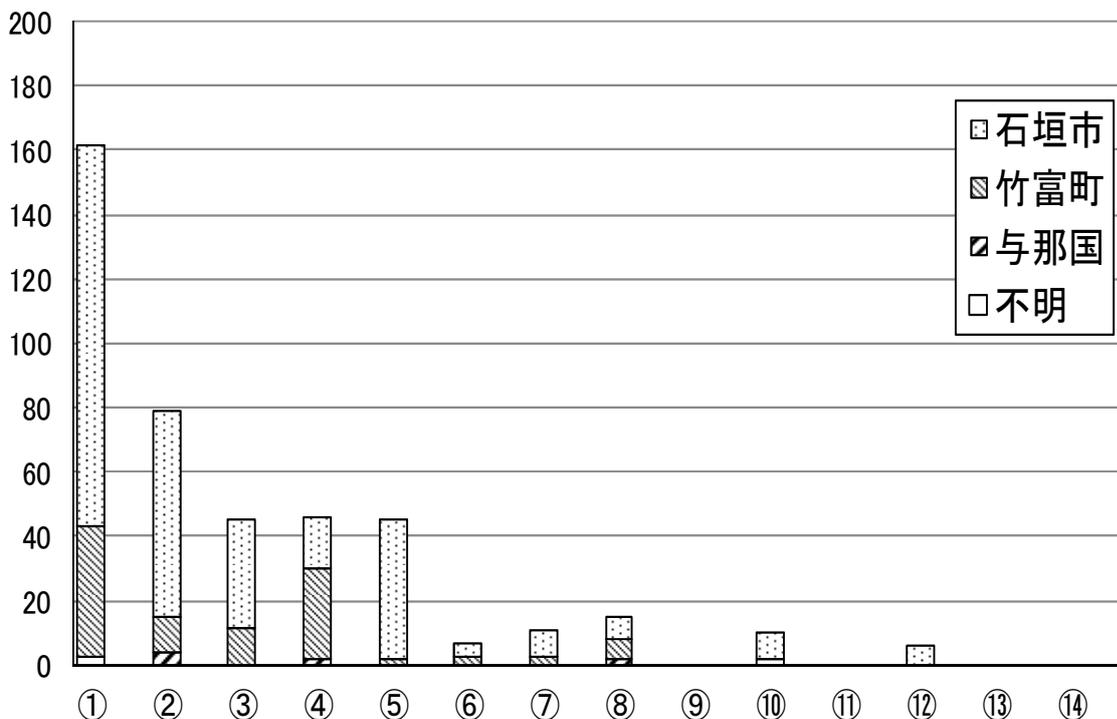
被害報告の多い順に、ハブクラゲ 161件 (37.5%)、加害生物不明 79件 (18.4%)、カツオノエボシ 46件 (10.7%) となっている。

他種・不明刺胞動物の中にはハブクラゲが含まれていることも考えられるため、ハブクラゲの被害報告件数は161件よりも高くなることが予想される。

表2. 加害生物別被害報告件数

市町名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	計
石垣市	118	64	33	16	43	4	8	7	1	8	0	6	1	0	309
竹富町	40	11	12	28	2	2	2	6	0	0	1	0	0	1	105
与那国	0	3	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	9
不明	3	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	6
計	161	79	45	46	45	7	11	15	1	10	1	6	1	1	429
年平均	11.5	5.6	3.2	3.3	3.2	0.5	0.8	1.1	0.1	0.7	0.1	0.4	0.1	0.1	42.9

- ①ハブクラゲ ②不明 ③他種・不明刺胞動物 ④カツオノエボシ ⑤ヒトデ類
 ⑥イギンチャク・サゴ等 ⑦オコゼ類 ⑧他種・不明魚類 ⑨ウニ類 ⑩カサゴ類 ⑪ゴンズイ
 ⑫ガンガゼ ⑬ウミヘビ類 ⑭軟体動物



【参考】

参考としてハブクラゲ及びオニヒトデの年別被害報告件数を示す。

ハブクラゲは海の危険生物として広く知られるようになり、被害報告件は‘12年まで減少傾向にあった。その後入域観光客数の大幅増加に伴い‘13年‘14年の被害報告は増加しているものと思われる。‘14年のハブクラゲによる被害32件のうち22件は遊泳中に起きており、発生場所のほとんどがクラゲ侵入防止ネットのない場所での被害である。

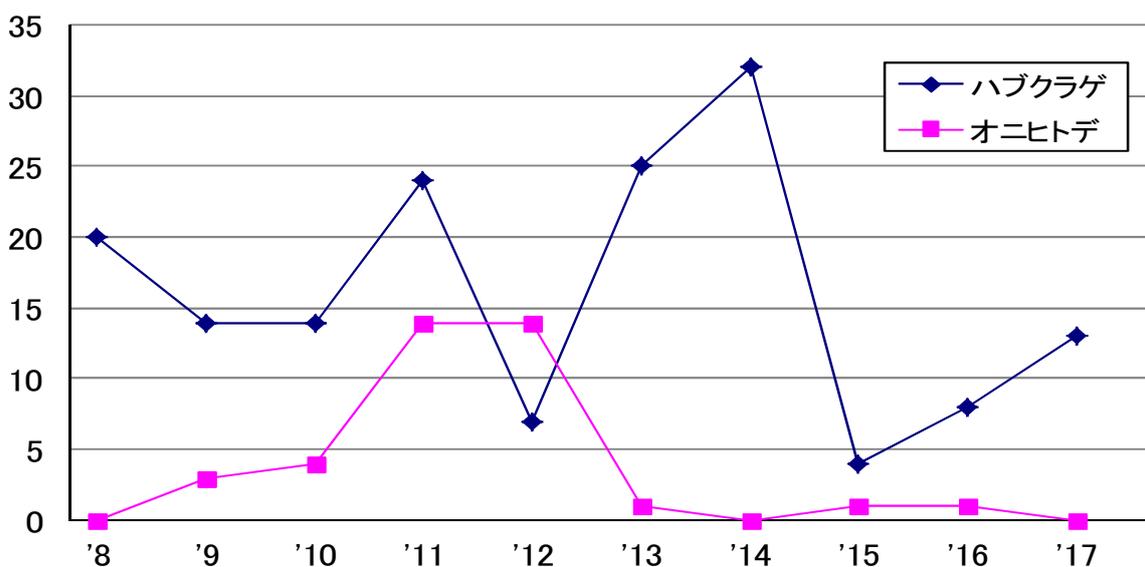
オニヒトデによる被害については、11年はスキューバ中が8件と最も多かったのに対し、12年は遊泳中が9件と最も多かった。県でオニヒトデ駆除の対策を行ったこともありその後の被害件数は激減している。

ハブクラゲ年別被害報告件数

'8	'9	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17
20	14	14	24	7	25	32	4	8	13

オニヒトデ年別被害報告件数

'8	'9	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17
0	3	4	14	14	1	0	1	1	0



3. 海岸別被害報告件数(2008年～2017年)

被害報告件数 429 件中 10 件以上の報告があった海岸を表 3 に示す。

被害の発生した海岸のほとんどが石垣島にある。その上位 4 カ所は、米原 37 件 (8.6%)、富崎 32 件 (7.5%)、底地 31 件 (7.2%)、名蔵湾 26 件 (6.1%) で、県内及び県外在住者がよく利用する海岸である。

表3. 海岸別被害報告件数(2008年～2017年)

No.	海岸名	計	年平均	No.	海岸名	計	年平均
1	米原	37	3.7	6	川平湾	21	2.1
2	富崎	32	3.2	7	不明	19	1.9
3	底地	31	3.1	8	不明(石垣市)	13	1.3
4	名蔵湾	26	2.6	9	久宇良	11	1.1
5	川平石崎北	21	2.1	10	真栄里	10	1.0

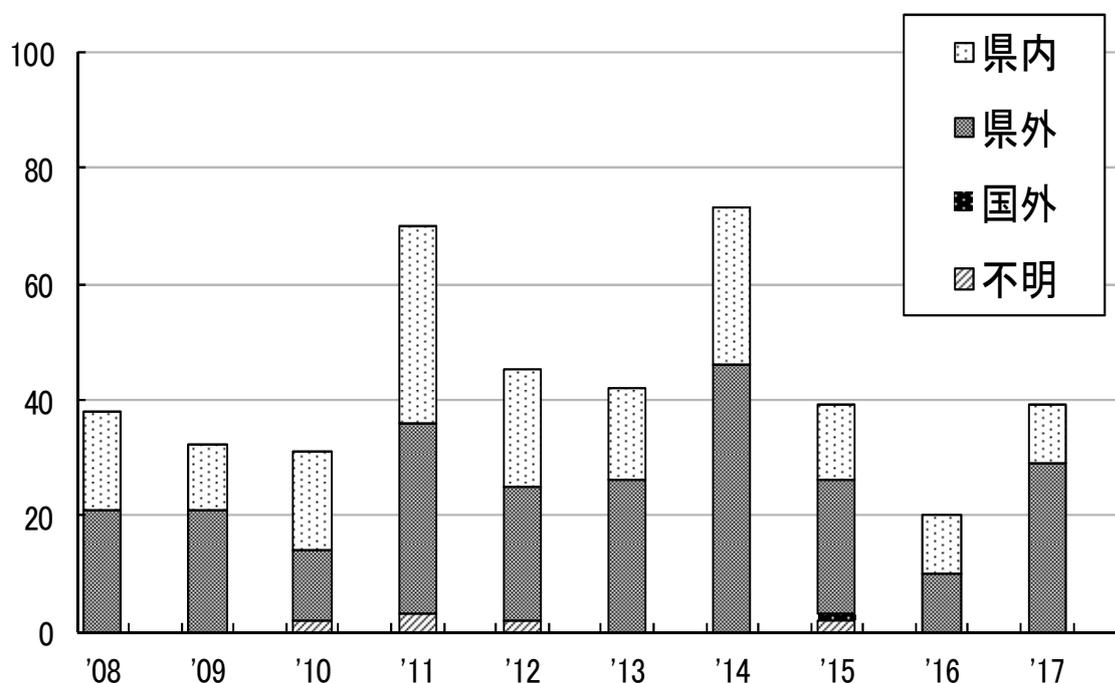
4. 県内外在住地別件数(2008年～2017年)

県内・県外在住地別の被害報告件数を表4に示す。

2011年を除き被害報告件数は県外在住者が県内を上回っており、10年間の合計件数では県外が56.9%を占めている。県外在住者のほとんどは観光客と思われるため、さらなる海洋危険生物に関する啓発が必要である。

表4. 県内外別被害報告件数

年	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	計
県内	17	11	17	34	20	16	27	13	10	10	175
県外	21	21	12	33	23	26	46	23	10	29	244
国外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
不明	0	0	2	3	2	0		2	0	0	9
計	38	32	31	70	45	42	73	39	20	39	429



5. ハブクラゲ月別被害報告件数（2008年～2017年）

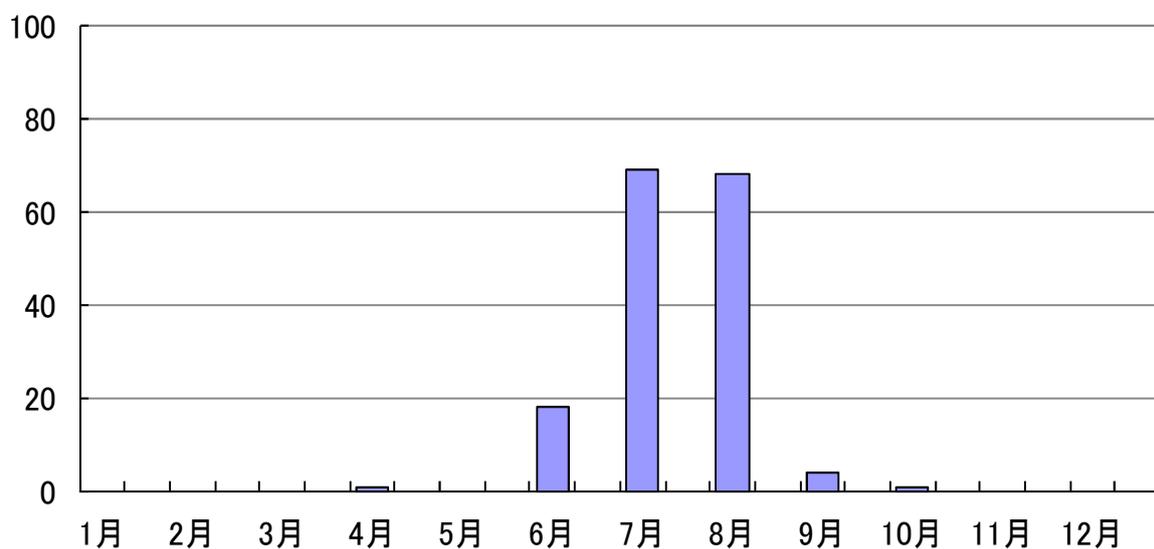
ハブクラゲによる月別被害報告件数を表5に示す。

被害は主に6月から8月に発生している。

7月、8月に多くの被害（85.1%、137件）が発生しているが沖縄県全域でも同様な傾向を見せている。これらはハブクラゲの成長過程と海のレジャーシーズンとが重なっていること要因であると県衛生環境研究所は分析している。

表5. ハブクラゲ月別被害報告件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	0	0	0	1	0	18	69	68	4	1	0	0	161



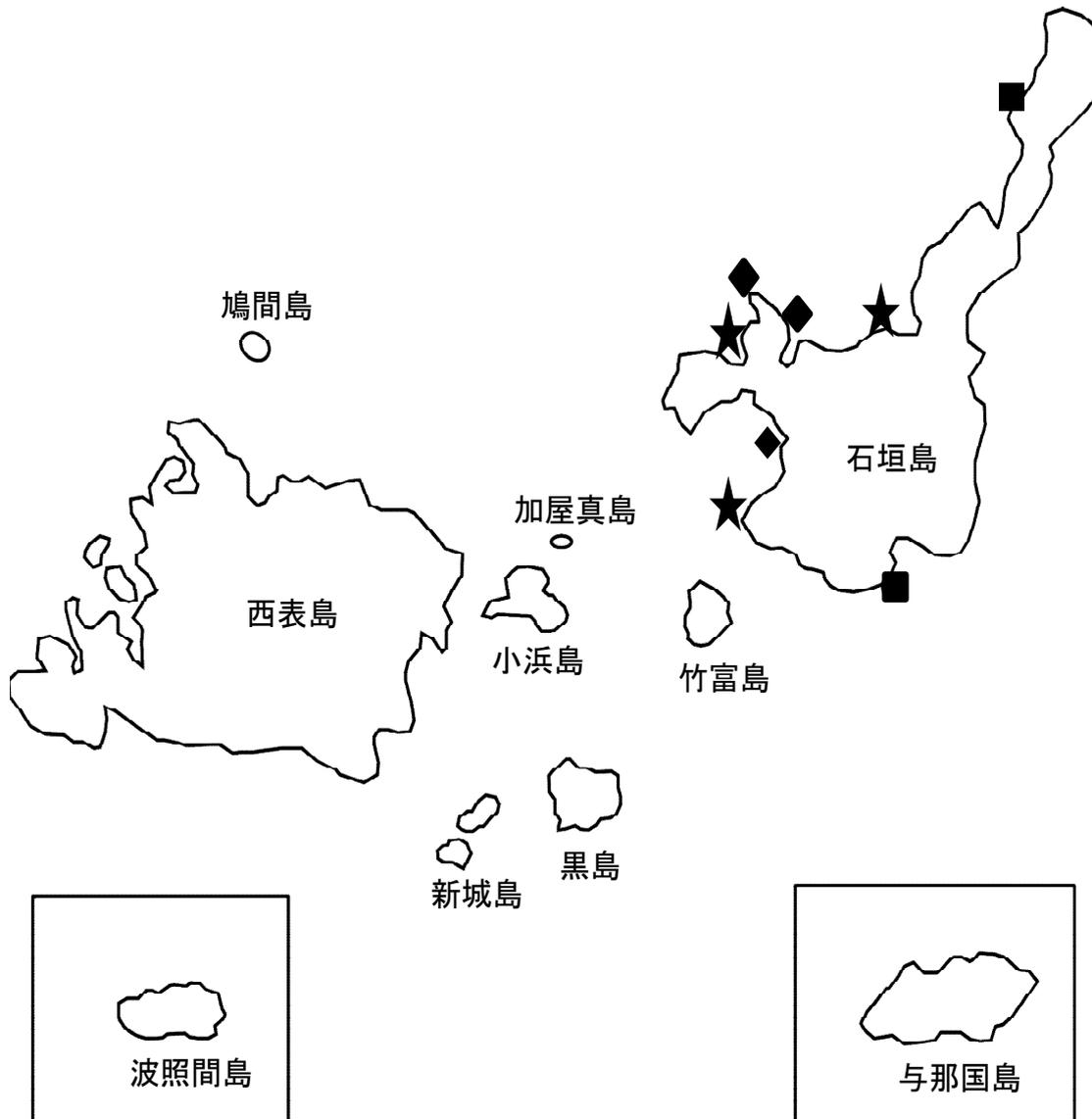
6. ハブクラゲ被害報告分布図

ハブクラゲによる被害報告の分布図を図1に示す。

黒島、波照間島、新城島ではこれまで被害報告はないが、報告がないだけで実際には被害が発生している可能性もあるため注意が必要である。

図1. ハブクラゲ被害報告分布図

■10-20件 ◆21-30件 ★31件～



II 海洋危険生物対策

1. 海洋危険生物に対する備え

海洋危険生物に対する備えを以下に示す。

ただし、備えは被害を最小限に抑える効果はあるが、被害を完全に防ぐことは難しいことに留意すること。

【海岸利用者の備え】

- 肌の露出を抑える（長そで・ズボン、グローブ、ブーツなどの着用）
- 食酢の準備（ハブクラゲ被害時の応急処置）
- クラゲ侵入防止ネット内での遊泳
- 知らない生物に触らない
- 岩やサンゴなどに触らない（危険生物が潜んでいる可能性あり）
- 応急処置方法を知る
（沖縄県衛生環境研究所 HP より「気をつけよう海のキケン生物」が DL できます）
- 危険生物についての知識を持つ（種類・特徴など）

【海岸管理者の備え】

- クラゲ侵入防止ネットの管理
（沖縄県衛生環境研究所 HP より「ハブクラゲ侵入防止ネット管理マニュアル」が DL できます）
- 注意喚起（立て看板やポスター等）
- 食酢の常備
- 応急処置方法を知る
- 危険生物についての知識を持つ

2. 応急処置方法

生物別の応急処置方法を以下に示す。

海洋危険生物の被害にあった場合は、すぐに海から上がる。また、周りの人にも声をかけ被害が広がらないようにする。いずれの場合も、応急処置のあとに医療機関を受診すること。

生物名	応急処置方法	備 考
ハブクラゲ	①食酢を患部にたっぷりかける ②付着した触手をそっとはがす ③氷や冷水で冷やす	付着した触手は絶対にこすらない。 食酢には刺胞の発射を抑えますが、痛みを和らげる効果はありません。
ウバチイギンチャク カツオノエボシ	①海水で刺胞球や触手を流す ②氷や冷水で冷やす	食酢は絶対に使わないで下さい。 食酢により刺胞の発射が促進される場合があります。
イモガイの仲間 ウミヘビの仲間	清潔にして、早急に病院へ運ぶ。	
ヒョウモンダコ	清潔にして早急に病院へ運ぶ。	口で吸い出すことはしない。 フグ毒と同じテトロドトキシンを持っています。
ラッパウニ ガンガゼ オニヒトデ エイの仲間 オコゼの仲間 シカゴ ^o の仲間 ゴンズイの仲間	目に見える大きなトゲを取り除き、40～45℃程度のお湯につける。ビニール袋などにお湯を入れて患部に当ててもよい。	やけどに注意。